第３期
水のカムイ観光圏整備計画

2025 年（令和 7 年）4 月

北海道 釧路市・弟子屈町

目次

１．計画の名称等 3
(1) 計画の名称 3
(2) 基本理念 3
(3) ブランドコンセプト 3
２．基本的事項 4
(1) 観光圏の区域 4
(2) 滞在促進地区の区域 4
(3) 観光圏整備事業の実施体制等 6
(4) 観光圏整備計画の目標 6
(5) 計画期間等 7
(6) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映状況 7
(7) 住民の観光地域づくりに対する意識啓発と参加促進を目指すための取組 8
３．観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針 9
(1) 観光旅客の来訪と滞在の現状 9
(2) 当圏域の課題 10
(3) 本圏域の特性と諸条件（ＳＷＯＴ分析） 13
(4) 基本的な方針 13
(5) ターゲット設定 14
４．観光圏整備事業の概要 15
(1) 観光資源を活用したサービスの開発及び提供に関する事業 15
(2) 移動の利便性の向上に関する事業 15
(3) 情報提供の充実強化に関する事業 15
(4) その他　観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に資する事業 16
５．協議会に関する資料等 16
(1) 水のカムイ観光圏協議会開催状況等（2024 年（令和 6 年）） 16
(2) 水のカムイ観光圏協議会規約 16
６．その他 16
(1) 第二期　釧路市観光振興ビジョン（平成 29 年度から令和 8 年度） 16

１．計画の名称等

(1) 計画の名称

第三期 水のカムイ観光圏整備計画

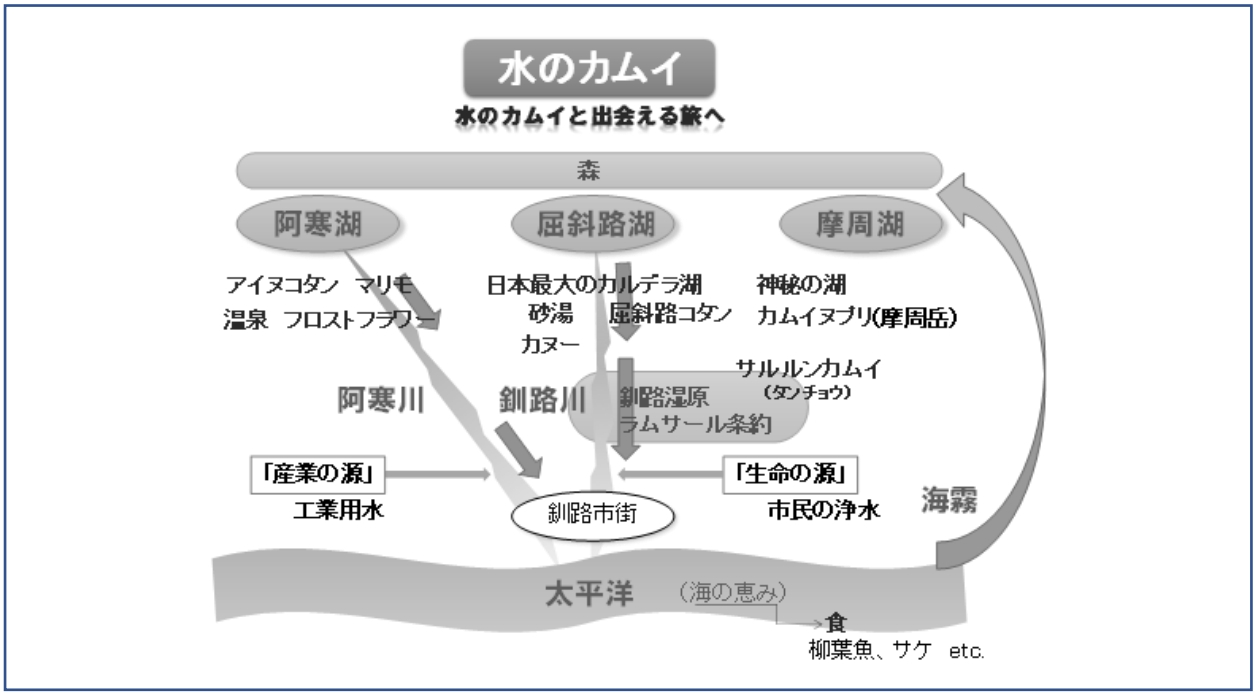
(2) 基本理念

常に身近で希少な自然環境と恵みを感じながら、守り育ててきた営みをベースとした、自然と共生する持続可能な地域社会の形成

(3) ブランドコンセプト

「水のカムイと出会える旅へ」
Untouched Hokkaido
～釧路湿原・阿寒・摩周～

当圏域は森→湖→川→海→海霧→森といった「水の循環」で結ばれた一体感を有する圏域であるとともに、雨、霧、雪、氷、温泉を体感できる特長を有する圏域である。また、当圏域が誇る「タンチョウ」「阿寒湖のマリモ」「摩周湖」といった観光資源は、あらゆる事物に「神」が宿ると考えるアイヌ文化の思想で言い換えれば、「水の神（＝カムイ）」によってもたらされたものと捉えることが出来る。
この「水のカムイ」によってもたらされた雄大で多様な自然、そしてその自然と共生してきた歴史文化を、来訪者の方々にも体感していただくことをコンセプトとして設定し、取組を進めていく。



２．基本的事項

(1) 観光圏の区域

① 区域の地理的範囲

阿寒摩周国立公園及び釧路湿原国立公園を中心とした釧路市及び弟子屈町の全域

② 観光圏を構成する市町村名

北海道釧路市、弟子屈町

③ 区域の設定理由

当圏域には、希少で貴重な自然と生態系を持つ２つの国立公園（阿寒摩周国立公園と釧路湿原国立公園）が存在している。また、日本の先住民族であるアイヌ民族が多く暮らしている。

こうした地理的一体性のもとに、当圏域において様々な観光地域づくりを進めてきたところであり、「釧路湿原・阿寒・摩周観光圏（2010 年度（平成 22 年度）～2014 年度（平成 26 年度））」、「水のカムイ観光圏（2015 年度（平成 27 年度）～2024 年度（令和 6 年度））」の認定を受け、釧路市及び弟子屈町、観光関係団体、交通事業者など官民の連携による協議会を組織し、地域一体となった取組を展開してきた。コロナ禍により旅行客が激減した後、国内・海外を問わず旅行客が順調な回復を見せている背景には、圏域における受入体制整備やプロモーションを通した認知度の向上など、15 年間の取組による一定の成果があるものと考えられる。今後も、高付加価値で持続可能な観光地域づくりを進めていく。

(2) 滞在促進地区の区域

① 主たる滞在促進地区の区域

当圏域エリアにおいては釧路・阿寒・弟子屈の３地区を主たる滞在促進地区として定める。

釧路地区：都市型観光でビジネスホテルが多く交通の結節点であり、釧路管内にとどまらず、根室、オホーツク、十勝といったひがし北海道を周遊する上での拠点的な役割があり、我が国における特別天然記念物「タンチョウ」が生息する釧路湿原を有する地区

阿寒地区：温泉旅館が軒を連ねる阿寒湖温泉エリアを中心とした地区であり、オホーツク、知床、十勝方面とのバス交通の結節点、アイヌ文化を感じ取ることができるコンテンツや自然を楽しめるアドベンチャートラベルコンテンツなどが集中し、我が国の特別天然記念物である「阿寒湖のマリモ」などの資源がある地区

弟子屈地区：阿寒摩周国立公園や水のカムイ観光圏エリアを代表する摩周湖、屈斜路湖、釧路川源流、近年入込者数が増加している外国人旅行客から高評価を得ているアトサヌプリ（硫黄山）などの景勝地資源が集積する地区。鉄道によって、釧路湿原やオホーツクともつながる地域である。

名　　称	**釧路滞在促進地区**
地理的範囲	釧路市（釧路地区）

【設定理由】

ラムサール条約湿地である釧路湿原国立公園を有する本地区には、交通の結節点である「たんちょう釧路空港」、「ＪＲ釧路駅」などが存在し、圏域の玄関口であるとともに、都市機能が集積する拠点機能を持ち、中心市街地エリアでは、世界三大夕日の一つと言われる「釧路の夕日」の観覧やクルーズなど滞在プログラムも展開されている。

また、背後地にある釧路湿原では、カヌーなど様々なアクティビティのほか、湿原を走る「ＳＬ冬の湿原号」の運行など、様々な滞在プログラムが提供され、都市型観光の拠点となっている地区である。

地域連携ＤＭＯとして、釧路観光コンベンション協会が各種の滞在プログラムの企画・運営を行っており、2019 年度（令和元年度）から「観光コンシェルジュ」の機能も強化し、販売も行っている。

名称	**阿寒滞在促進地区**
地理的範囲	釧路市（阿寒地区）

【設定理由】

釧路湿原国立公園と同じくラムサール条約湿地であり、特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」が生育する阿寒湖を有する本地区は、北海道を代表する温泉リゾートである阿寒湖温泉を有し、太古の原生林や湖をフィールドとした様々な体験プログラムを備えている地区である。

地域ＤＭＯであるＮＰＯ法人阿寒観光協会まちづくり推進機構が中心となり滞在プログラムの企画等を行っているが、2018 年度（平成 30 年度）からＤＭＣである阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社を設立し、滞在プログラム、着地型旅行商品の造成や夜のコンテンツ作りを進めている。

名称	**弟子屈滞在促進地区**
地理的範囲	弟子屈町

【設定理由】

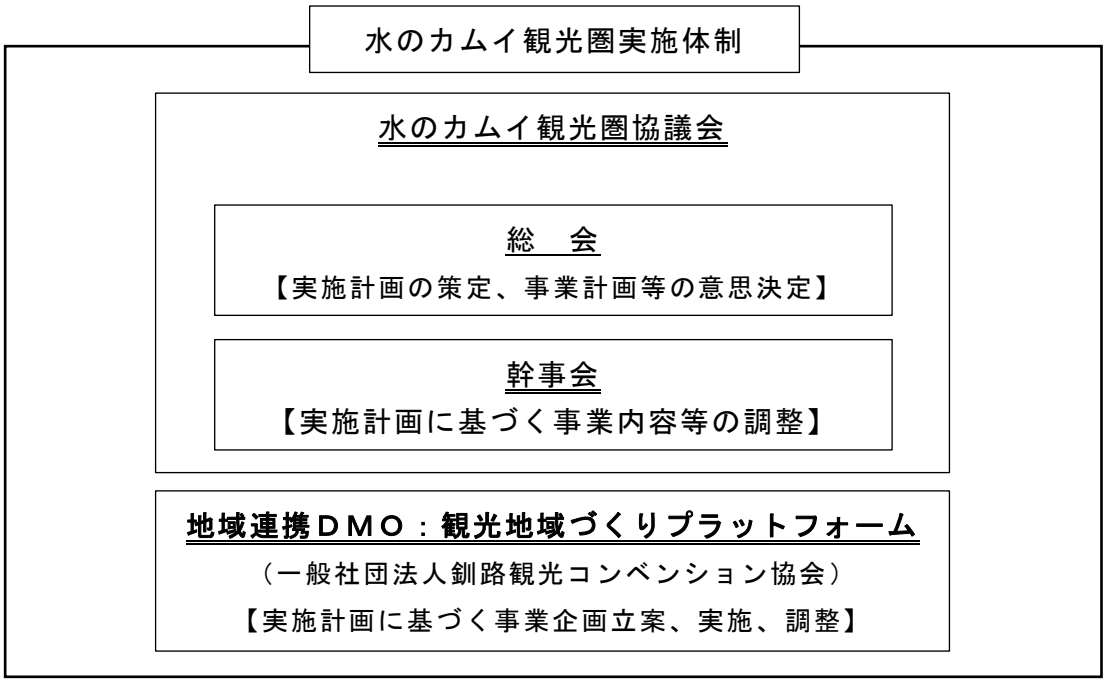
世界有数の透明度を誇る摩周湖や日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖を擁し、硫黄山や川湯温泉、釧路川など豊かな自然景観に恵まれ、湖と火山を体感できる地区である。宿泊拠点としては、火山の大地であることが実感でき、強酸性泉の源泉かけ流し温泉として歴史ある川湯地区、摩周湖を中心に市街地にも近く利便性の高い摩周地区、雄大な屈斜路湖と周辺に広がる森や川が美しいアクティビティの充実した屈斜路地区の３エリアがある。

2016 年（平成 28 年）に北海道で初めての「エコツーリズム推進全体構想」認定地域となり、2020 年（令和 2 年）より、火山を体感できる認定ガイドつき登山ツアー（アトサヌプリトレッキングツアー）を地域ＤＭＯの摩周湖観光協会が主催・販売している。また、2022 年（令和 4 年）には持続可能な観光地に向けた各種取組を一層推進していくため、国際基準のＧＳＴＣ基準を取り入れた「弟子屈町観光振興計画」を策定、施行した。

(3) 観光圏整備事業の実施体制等

① 観光圏整備事業の実施主体

当圏域では、民間事業者・観光関係団体・行政等で組織する「水のカムイ観光圏協議会」を意思決定機関として組織し、当該協議会には、事業の計画、実施などの総合調整を行う幹事会を設置するとともに、整備実施計画に基づく事業の企画・立案などについては、観光地域づくりプラットフォームである釧路観光コンベンション協会と連携し取組を進めていく。



② 観光圏整備事業における地方公共団体の役割

観光圏整備事業を進めるため、行政（釧路市及び弟子屈町）は、将来の方向性や地域全体の戦略を定めるとともに、必要経費の確保、インフラ整備を行う。

(4) 観光圏整備計画の目標

① 目指すべき方向性

当圏域は、２つの国立公園内に３つのカルデラ湖を有し、湖から流れ出す水が川となり海へと流れ、海からは海霧となって途中の森や平野を潤し、カルデラ湖まで遡上し、再び水になって海へ戻るという大きな水の循環が起きている地域である。

また、当圏域には、先住民族であるアイヌの方々の「自然に生かされ、あらゆる事物に「神」が宿る」と考えるアイヌ文化が根付いており、こうした地域固有の文化や豊かな自然環境を身近に体感できる圏域づくりを通して、自然と共生する持続可能な地域社会の形成を目指し、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを進めていく。

② 具体的な数値目標

目標項目		単位	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）	2027年度（令和9年度）	2028年度（令和10年度）	2029年度（令和11年度）
旅行消費額	全体	円/人	57,000 円	57,285 円	57,571 円	57,859 円	58,148 円
	国内		54,000 円	54,270 円	54,541 円	54,814 円	55,088 円
	外国人		72,000 円	72,360 円	72,722 円	73,086 円	73,451 円
延べ宿泊者数	全体	人泊	1,519,627	1,571,216	1,624,353	1,673,085	1,723,277
	国内		1,364,306	1,406,576	1,449,835	1,488,096	1,527,189
	外国人		155,321	164,640	174,518	184,989	196,088
リピーター率	全体	%	55.0%	55.3%	55.6%	55.8%	56.1%
	国内		60.0%	60.3%	60.6%	60.9%	61.2%
	外国人		20.0%	20.1%	20.2%	20.3%	20.4%
来訪者満足度	全体	%	26.0%	26.1%	26.3%	26.4%	26.5%
	国内		24.0%	24.1%	24.2%	24.4%	24.5%
	外国人		36.0%	36.2%	36.4%	36.5%	36.7%

〇積算の考え方

・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが５類に移行され、行動制限が解除された 2023 年度（令和 5 年度）の実績をベースに、各年度の項目（延べ宿泊者数を除く。）ごとに基礎数値を設定。

・各年度の延べ宿泊者数は、2024 年度（令和 6 年度）上期（4 月～9 月）までの実績をベースに、釧路市及び弟子屈町の計画目標値を勘案して設定。

③ 継続的・自律的な活動体制等の目標

３つの滞在促進地区の取組状況等に関する情報共有を図ることを目的にプラットフォームマネージャー会議を設置している。第２期の期間においては、コロナ禍の影響により活動が制限されたことから、第３期の期間においては改めて本会議を活用し、観光資源や商品の磨き上げ、自律的な活動体制の構築を目指す。

(5) 計画期間等

① 計画期間

2025 年（令和 7 年）4 月 1 日～2030 年（令和 12 年）3 月 31 日

② 計画の見直し

本計画は、社会情勢の変化などに対応し、必要に応じて所要の見直しを行う。

(6) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映状況

観光関係団体で構成する「水のカムイ観光圏協議会」は、釧路・阿寒・弟子屈をまたぐ広大な地域において観光地域づくりに携わる様々な主体を構成員としている。

協議会における住民その他利害関係者の意見や圏域内のニーズの把握については、総会、幹事会、プラットフォームマネージャー会議などの開催により行っているほか、

事務局が主催するセミナーにおいて、地域住民との質疑応答や意見交換を通して観光地域づくりへの意識の高揚を図っているところである。

会議を重ねる中で、観光圏整備計画・同整備実施計画の作成や、観光地域づくりに対する気運の醸成、観光圏整備事業に対する理解促進が図られ、観光地域づくりマネージャーの育成にも繋がっていることから、今後も観光地域づくりマネージャーを中心に地域住民の意見を反映できる体制を整えていく 。

※2024 年（令和 6 年）の開催状況等は別添のとおり

(7) 住民の観光地域づくりに対する意識啓発と参加促進を目指すための取組

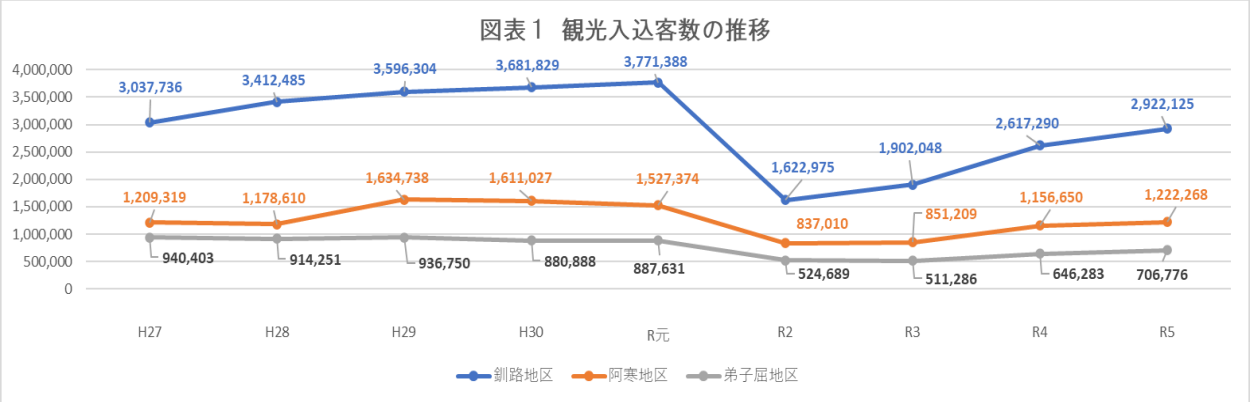
観光地域づくりマネージャーを中心に、住民に対するセミナー・広報活動等を通して観光地域づくりに取り組む意義､その状況等を広く発信する取組などを行うことで、観光地域づくりに地域住民が積極的に参加する気運の醸成を図る。

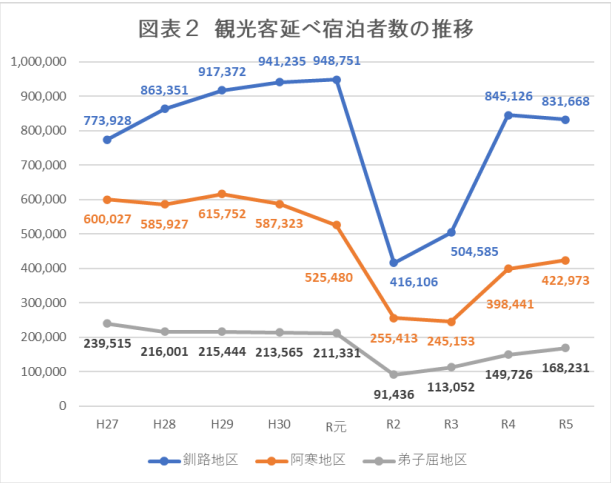
３．観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針

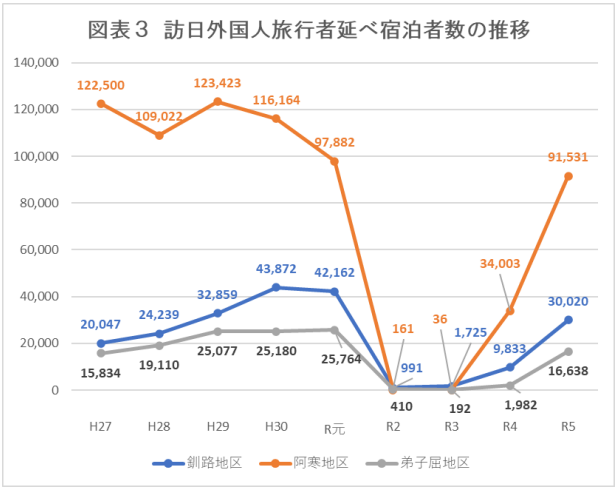
(1) 観光旅客の来訪と滞在の現状

当圏域の第２期計画期間における観光入込者数・延べ宿泊者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計画初年度である 2020 年度（令和 2 年度）に急激に落ち込む事態となった。以来、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが５類に移行され、行動制限が解除された 2023 年度（令和 5 年度）までの間、全国的に官民挙げた観光需要喚起施策が展開され、当圏域においても国の交付金等を活用した様々な取組が行われたところであり、この間、観光入込者数・延べ宿泊者数は順調な回復を見せている。

昨今、サステナブルツーリズム・エコツーリズムといった持続可能性や環境の負荷軽減を重視する考え方の広まり、当圏域がメインターゲットとする欧米豪の旅行客が指向するアドベンチャーツーリズムの高まりなど、観光を取り巻く環境は大きな変化を見せている。これらの考え方は、２つの国立公園や自然との共生を重んじるアイヌ文化などを有し、野生生物との軋轢を解消していく「環境治療」という考え方に基づく取組を官民で進めている当地域との親和性が極めて高いことから、当圏域としては、これらの考え方に沿ったコンテンツ造成や、二次交通整備などの受入体制整備に地域一体となって積極的に取り組み、日本全国、また、世界の旅行客から訪れたいと思われる、持続可能で高付加価値な観光地域づくりを推進していく。







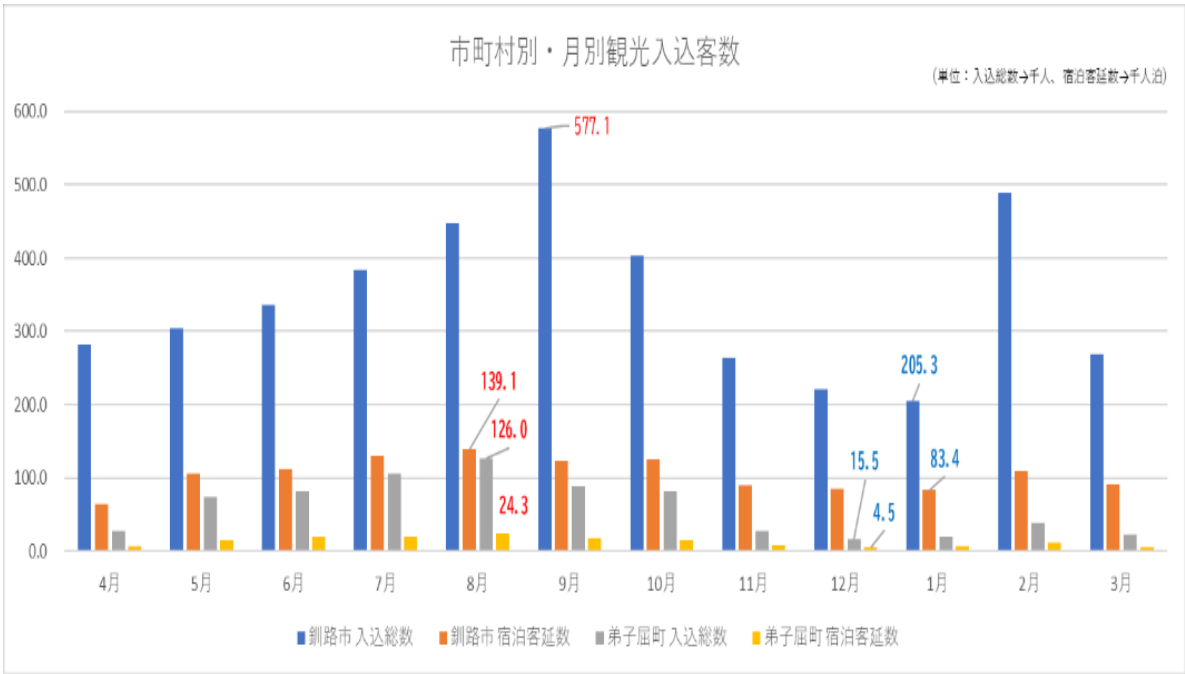
（出典：釧路市・弟子屈町観光統計）

(2) 当圏域の課題

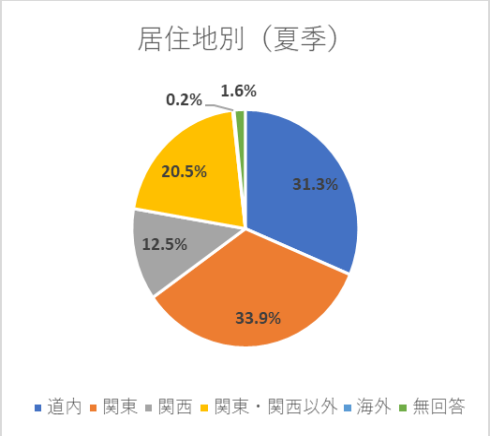
当圏域で実施した「【2023 年度】来訪者満足度調査（以下「満足度調査」という。)」を通じて、以下の点が今後の取組を進める上での課題である。

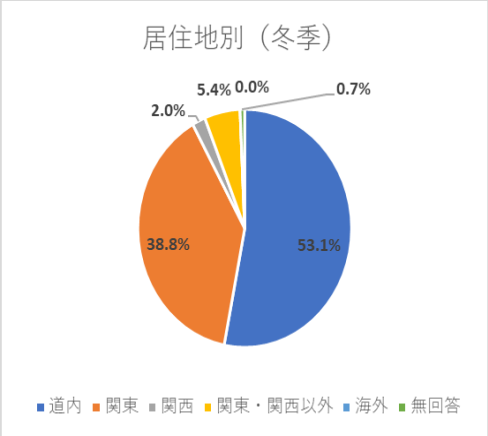
① 滞在時期の偏在

観光入込者数・延べ宿泊者数が示すとおり、当圏域は夏季と冬季で旅行客の滞在に大きな差があり、冬季（アジア圏の旧正月期間である２月を除く。）の集客には課題がある。満足度調査でも特に国内旅行客の居住地別割合において、夏季は道外からの旅行客が７割近くを占める反面、冬季は５割強を道内の旅行客が占めており、関東を除く道外からの旅行客の割合が大きく減少していることが見受けられる。このことから、海外も含め旅行客の滞在時期の季節偏在を解消するため、冬季の滞在コンテンツ充実や受入体制整備を図り、１年を通して安定的な集客に繋げていくことが必要である。



（出典：北海道入込客数調査報告書(R5_資料編)を基に独自に集計）

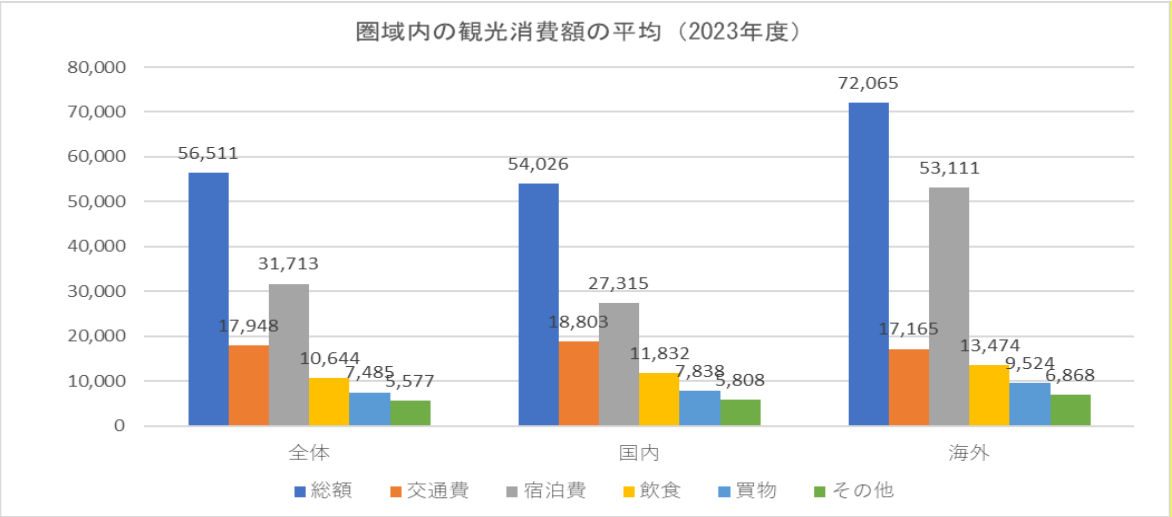




（出典：【2023 年度】来訪者満足度調査）

② 観光消費の拡大

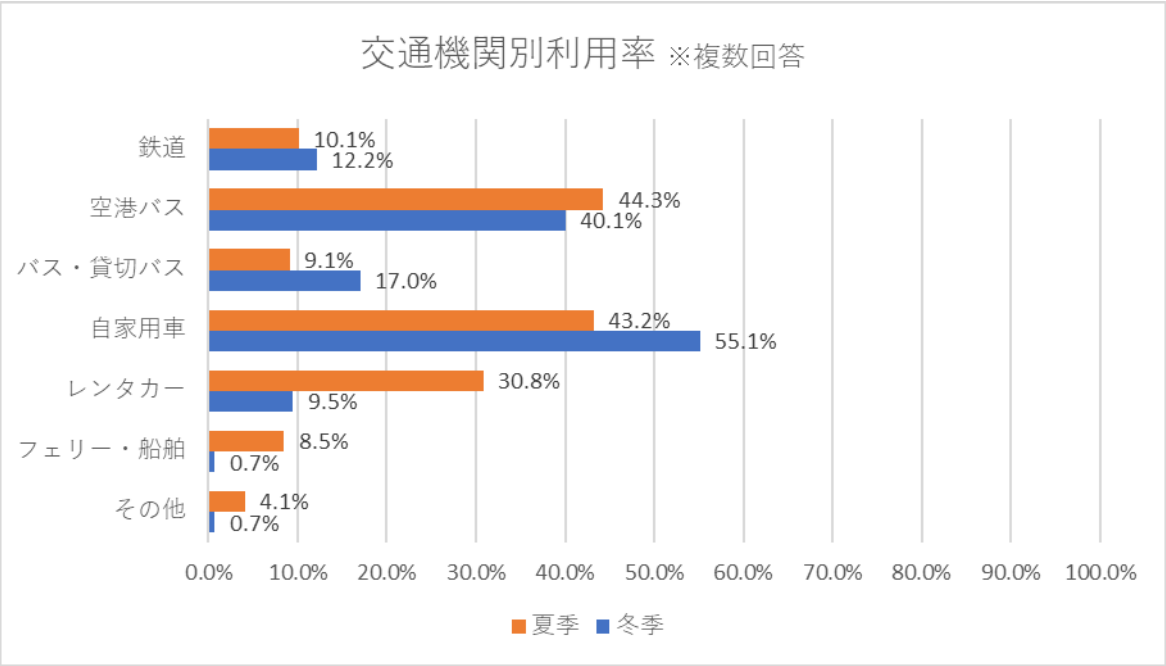
満足度調査では、旅行客１人当たりの平均消費金額の比較において、海外が国内を大きく上回っており、全体の平均消費金額を押し上げていることが窺える。このことから、国内旅行客に対して購買意欲の喚起や情報の発信などを行い、平均消費金額を引き上げていくことが必要であると同時に、消費金額が大きい海外からの旅行客をさらに呼び込むため、体験型観光に係る取組を積極的に進めていく。具体的には、２つの国立公園・アイヌ文化・食などの地域資源を活かし、当圏域においてのみ体験可能なアクティビティの造成・販売を推進することで、ブランド力の向上と高付加価値化を図り、誘客・滞在促進に結び付け、観光消費額の増加を目指す。



（※【2023 年度】来訪者満足度調査を基に独自に推計）

③ 受入環境整備

満足度調査では、当圏域を訪れる旅行客が利用する交通機関について、空港バスや自家用車の利用率が高いことを示しており、域内の主要な移動手段として１年を通して利用されていることが窺える。一方で、レンタカーについては夏季の高い利用率に対し、冬季の大幅な利用率低下が当圏域エリア特有の道路状況悪化に起因するものと推測されるものの、受け皿となるバス・貸切バスの冬季の利用率が比例して伸長していないのは、便数・周遊ルート・停留場所など利便性に課題があることに起因すると考えられることから、二次交通対策の強化、特にバス・貸切バスの利便性向上に係る対策の強化が必要である。

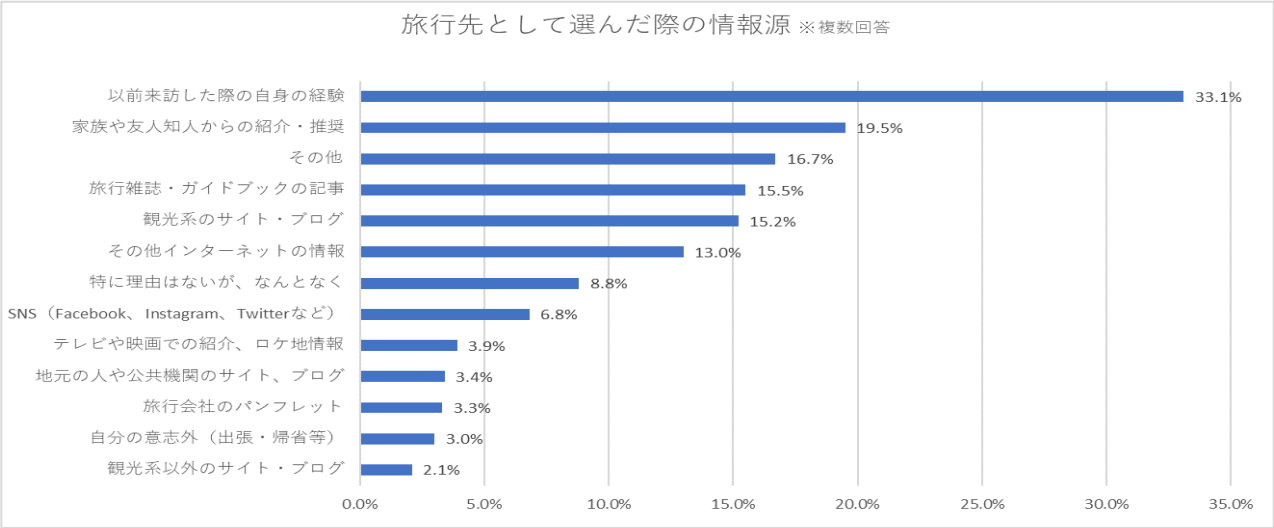


（出典：【2023 年度】来訪者満足度調査）

④ 情報発信の強化

満足度調査では、旅行先として選んだ際の情報源は、「以前来訪した際の自身の経験」が最も多く、リピーター層への更なるアプローチをする必要がある。

また、観光系のサイト（ＪＮＴＯなど）・ブログからの情報の割合も高いことから、海外も含めてデジタルプロモーションの強化が必要である。



（出典：【2023 年度】来訪者満足度調査）

(3) 本圏域の特性と諸条件（ＳＷＯＴ分析）

内的要因	
＜強み＞	＜弱み＞
・希少で豊かな特徴ある自然 ・気象・風土に特徴がある ・自然との共生の文化 ・豊かな食 ・冬季の環境の強み ・環境への配慮	・二次交通の脆弱性 ・案内・サイン類の不備 ・国際化対応 ・差別化・ブランド化不足 ・国立公園の制約 ・担い手・人材・投資の不足

外的要因	＜機会＞	積極化戦略【強み×機会】	段階的戦略【弱み×機会】
	・インバウンドの伸び ・アドベンチャーツーリズムの広がり ・アイヌ文化の存在感増 ・旅行客ニーズの多様化 ・宿泊税導入議論の進展 ・北海道東トレイル開通	● インバウンドターゲットの設定 ● アドベンチャーツーリズムの推進 ● 滞在コンテンツの魅力向上 ● アイヌ文化のブランド化 ● エコツーリズム・サステナブルツーリズムの推進	● 二次交通対策の検討 ● ガイド養成も含めた国際化の取組 ● 国立公園の特色を活かした事業構築
	＜脅威＞	差別化戦略【強み×脅威】	専守防衛【弱み×脅威】
	・貸切バス運賃の距離的ハンデ ・航空運賃の高さ ・新千歳空港への一極集中 ・季節特有の交通障害	● 二次交通も含めた圏域情報の発信 ● 付加価値あるサービス提供	● 富裕層向けサービスの展開 ● 広域的な連携の推進 ● サービスの質の向上 ● 手ぶら観光など利便性向上

(4) 基本的な方針

●世界の旅行客から選ばれる観光地域づくり

満足度調査では、認知されたサービス品質・価値について、「景観や雰囲気」「食事・飲食店」の評価が高く、これらの要素に加え、自然との共生の思想を重んじるアイヌの方々が居住し、地区ごとに個性と多様性に富むアイヌ文化を意識したこの地域らしい滞在コンテンツを地域一体となって充実させていくことで、評価が低い「体験プログラム・ツアー」の充実を図りながら、デジタルプロモーションの実施や受入環境の整備を行い、旅行客の期待に応えられる高付加価値で持続可能な観光地域づくりを進める。

① 持続可能な観光地域づくり戦略に基づく基本方針

自然・文化等保全に配慮した観光コンテンツを開発するに当たり、当圏域のコンセプト「水のカムイと出会える旅へ」の特別感を体感できる滞在プログラムを造成し、自然と共生する取組を、観光団体・事業者・行政・地域住民が一体となって進めることにより、持続可能な観光地域づくりを目指す。

また、満足度調査の結果を参考に進めている各種受入環境整備については、当圏域内の「移動」や「情報収集」など、引き続き快適に旅行できる環境整備を行う。

② インバウンド回復戦略に基づく基本方針

アドベンチャートラベルの主要市場である欧米豪をメインターゲットとし、当圏域内の観光消費の向上とアドベンチャートラベル市場の販路拡大を図る。また、観光系のサイト（ＪＮＴＯ等）・ブログからの情報の割合も高いことから、デジタルプロモーション強化を図る。

③ 国内交流拡大戦略に基づく基本方針

2016 年（平成 28 年）3 月に道東自動車道（北海道横断自動車道）白糠ＩＣ～阿寒ＩＣ間が開通し、当圏域を訪れる札幌方面からの旅行客や北海道の玄関口である新千歳空港を利用して来道する旅行客などの増加に寄与している。2024 年（令和 6 年）12 月 22 日には阿寒ＩＣ～釧路西ＩＣ間、及び釧路空港ＩＣが開通したことから、当圏域への更なる誘客強化を図る。

(5) ターゲット設定

当圏域の今後の取組を進める上で、圏域の誘客ターゲットを定め各種のプロモーション活動などを実施する。

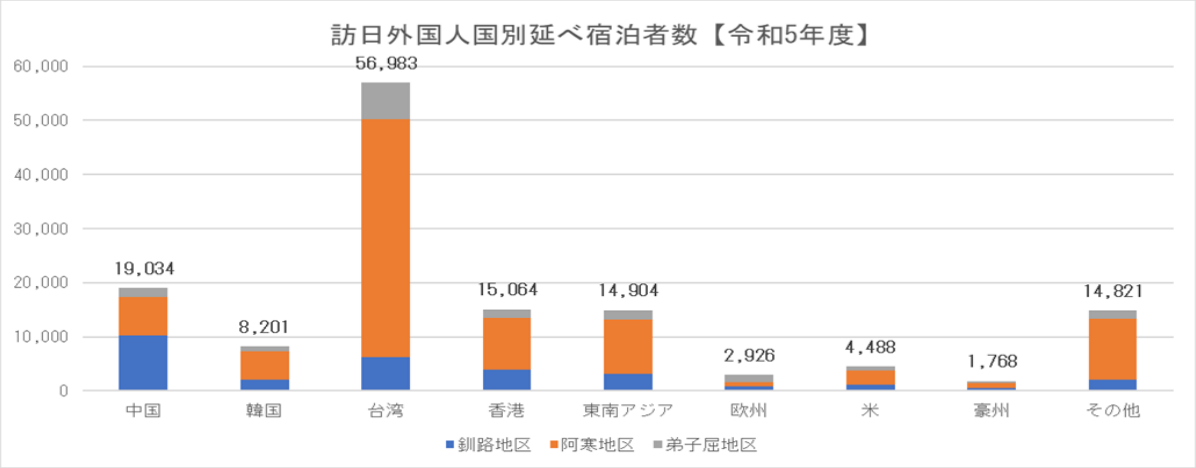
■メインターゲット：欧米豪の富裕層
■サブターゲット　：アジア圏の富裕層
■サブターゲット　：国内（関東・関西圏）

① ターゲットの設定理由

メインターゲットは、現在当圏域で進めているアドベンチャーツーリズムの主要市場である欧米豪の富裕層とし、圏域内の観光消費の向上とアドベンチャーツーリズム市場の販路開拓を進める。

サブターゲットは、当圏域の訪日外国人旅行客の約 77%を占めるアジア圏域の富裕層とし、当該エリアの来訪者の観光消費の向上を図り、圏域の経済波及効果を高める。

また、国内旅行客については、道外からの来訪者のうち、関東方面、関西方面から更なる誘客を進める。



（出典：釧路市・弟子屈町観光統計）

４．観光圏整備事業の概要

(1) 観光資源を活用したサービスの開発及び提供に関する事業

① 滞在コンテンツ造成事業	
概要	トレイル・サイクル・カヌーなどのアクティビティ、自然との共生を重んじるアイヌの文化、ブランドコンセプトである「水の循環」がもたらす豊かな山の幸・海の幸を活かした食など、釧路湿原・阿寒摩周国立公園を有する当圏域が誇る質の高いコンテンツをさらに磨き上げ、多様で希少な観光体験として包括的に提供することにより、近年指向されているサステナブル・エコ・アドベンチャーツーリズムといった考え方に沿った様々な観光ニーズに対応し、当圏域への誘客及び長期滞在の促進を図る。
実施時期	2025 年度（令和 7 年度）～2029 年度（令和 11 年度）

(2) 移動の利便性の向上に関する事業

① 観光圏バス運行	
概要	主たる滞在地である阿寒湖と弟子屈町を結ぶ公共交通網が無いことから、当圏域内を周遊していただくため、「釧路・知床号」「知床・釧路号」の圏域内での運行を支援し、圏域内における交通の利便性向上に取り組む。
実施時期	2025 年度（令和 7 年度）～2029 年度（令和 11 年度）

(3) 情報提供の充実強化に関する事業

① プロモーション事業	
概要	ホームページ、動画など、これまで整備してきた制作物をＳＮＳ等のデジタルソリューションと連動させ、総合的なプロモーション戦略の実行によって誘客につなげる。プロモーション戦略の構築に当たっては、ＰＤＣＡサイクルによる改善点の洗い出しと不要な事項の排除を継続的に行い、その時々の社会経済情勢を適切に反映した効果的なプロモーションとなるよう取り組む。
実施時期	2025 年度（令和 7 年度）～2029 年度（令和 11 年度）

② 観光圏ホームページ維持管理	
概要	観光圏ポータルサイトにより、観光圏を周遊する外国人旅行客が必要とする情報を重点的に発信するとともに、発信内容の継続的な改善及び当該サイトの維持管理を図る。併せて、情報インフラ（無料Ｗｉ－Ｆｉなど）整備により、通信環境の改善に努める。
実施時期	2025 年度（令和 7 年度）～2029 年度（令和 11 年度）

(4) その他　観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に資する事業

① 全国観光圏マーケティング調査	
概要	各種調査を通じて、目標値の達成状況を把握するとともに調査結果を分析し、事業の評価・改善につなげる。来訪者調査については、当地域来訪者（外国人含む）に対するアンケート調査を実施する。
実施時期	2025 年度（令和 7 年度）～2029 年度（令和 11 年度）

② 住民が一体となった観光地域づくりの推進事業	
概要	セミナーなどを介して、観光地域づくりに取り組む意義、その状況等を広く発信し、地域への理解を深めるとともに、特に、次代を担う人材に対して当地域の愛着を高めるなど、人材育成を目的とした取組を進める。
実施時期	2025 年度（令和 7 年度）～2029 年度（令和 11 年度）

5．協議会に関する資料等

(1) 水のカムイ観光圏協議会開催状況等（2024 年（令和 6 年））　別添

(2) 水のカムイ観光圏協議会規約　別添

6．その他

(1) 第二期　釧路市観光振興ビジョン（平成 29 年度から令和 8 年度）　別添